



中央環境審議会総合政策部会
環境に配慮した事業活動の促進に関する小委員会
第2回会合におけるヒヤリング



エコマークの現状と課題

2009年1月29日

財団法人日本環境協会

エコマーク事務局

山村 尊房



財団法人日本環境協会について

- ・ 環境教育事業
 - こどもエコクラブ事業、我が家の環境大臣事業
- ・ 普及・啓発事業（環境研究会、環境学習クラブ）
- ・ 環境保全活動促進事業（環境カウンセラー事業）
- ・ 環境ラベリング事業
 - エコマーク、世界エコラベリングネットワーク
- ・ 地球温暖化防止活動推進事業
 - 全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA）
- ・ 土壌環境保全対策事業
（「土壌汚染対策法」に基づく指定支援法人）

[所在地] 〒103-0002

東京都中央区日本橋馬喰町1-4-16

馬喰町第一ビル 9階



エコマークの歴史(1)



「私たちの手で地球を、環境を守ろう」という願いを込めて、「環境(Environment)」および「地球」(Earth)の頭文字「e」を表した人間の手が、地球をやさしくつつみ込んでいる姿をデザイン

○1989年2月制度開始

＜平成と共に誕生し、今年は20周年!＞

○財団法人日本環境協会が自主事業として実施



エコマークの歴史(2)

エコマーク商品について

◆ 47類型、4,449商品を認定(1,615社)

2008年12月末時点

1989年
(制度開始)

現在
2009年



身の回りの環境に対する意識を変えるような商品

日用品

さまざまな分野に広がり、組織購入者の目安になっている

日用品

建築・土木

文具

繊維

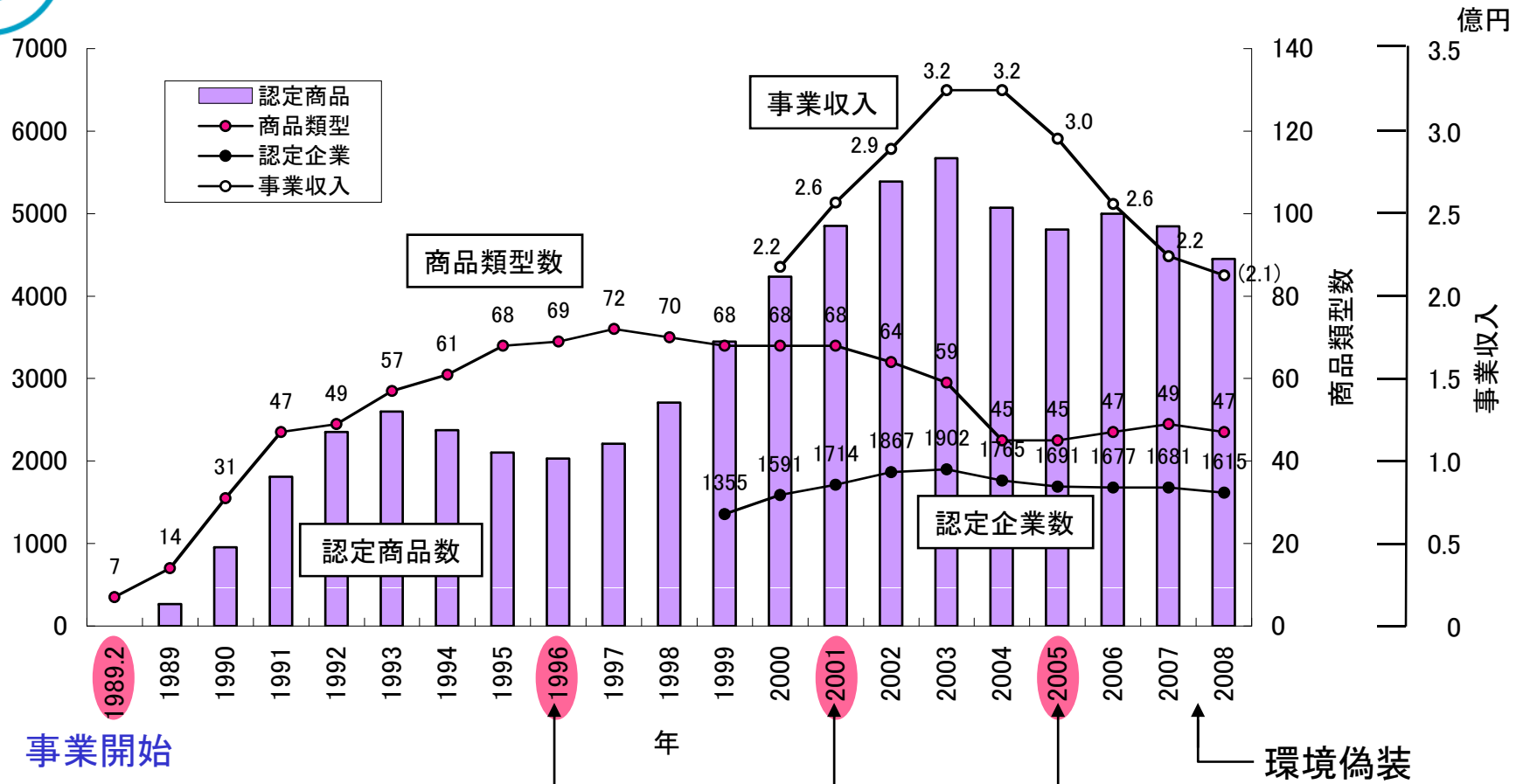
家具

電子機器

今後さらに対象となる分野が広がっていきます



認定商品数等の推移と主な事業改革



事業開始

商品のライフサイクル全体にわたる環境負荷を考慮する認定基準策定手続きに改定 (ISO14024への準拠)

環境省グリーン購入法施行

使用料を商品単価区分から会社売上高区分に改定

環境偽装



ISO (国際標準化機構) による種別と特徴

ラベルの特徴により、**タイプⅠ**・**タイプⅡ**・**タイプⅢ**の3種類

タイプⅠ (ISO14024) “第三者認証”

第三者が『資源の採取から廃棄まで』**全ライフサイクル**における環境影響を一定の基準に基づいて**認定**



エコマーク(日本)



ブルーエンジェル(ドイツ)

タイプⅡ (ISO14021) “自己宣言”

事業者の一定の基準を満たしている製品に対して表示される**自己宣言**



省エネラベリング
制度

タイプⅢ (ISO14025) “環境情報表示”

製品が環境に与える負荷を、技術報告書等で**定量的に表示**



<識別マーク:分別の際の参考>

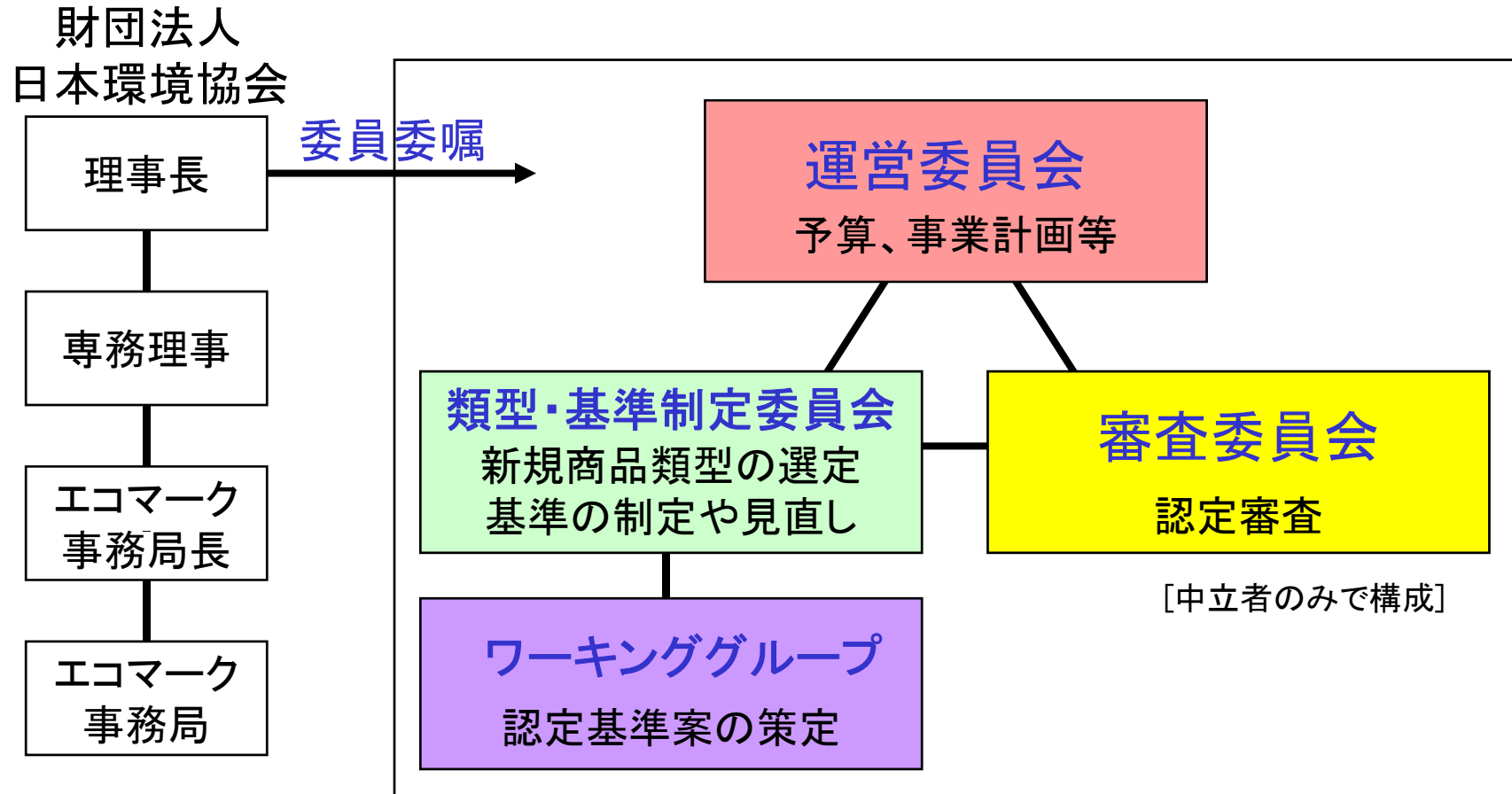


エコマーク事業の運営

1. 中立の**第三者機関**が運営(審査・認定)
⇒ 財団法人日本環境協会
2. 予算の独立
⇒ エコマーク使用料、審査料で運営
3. 事業者、消費者、中立の学識者の三者
による委員会での審議する



エコマーク事業における委員会制度



エコマーク事業に関する最終決定は、
団法人日本環境協会の評議員会・理事会



エコマークの国際活動(1)

世界エコラベリングネットワーク

GEN(Global Eco-labelling Network)の活動

- ・ 世界のタイプ I 環境ラベルの認証団体で構成。
- ・ 1994年設立。エコマーク事務局は設立に貢献、現在も総務事務局として役割を分担。
- ・ 2009年のGENの年次総会は日本で開催予定(11月)。



エコマークの国際活動(2)

日中韓環境産業円卓会議

三ヶ国の環境ラベル間の相互認証に向け活動

- ・ エコマーク事務局は、環境ラベルワーキンググループに参加。
- ・ 共通コア基準策定作業を推進。
- ・ 「パーソナルコンピュータ」の認定基準の共通化について、中国環境連合認証センター、韓国エコプロダクツ協会ならびに各国政府当局とともに三カ国間で作業。



エコマークの国際活動(3)

海外の環境ラベルとの協働

- ・ ドイツ「ブルーエンジェル」、北欧「ノルディックスワン」に対して、プリンタおよび複合機における将来的な認定基準の共通化と部分相互認証を進めるための検討作業を進め、各ラベルの担当者会合も開催している。
- 1)「ブルーエンジェル」: 制度開始1978年。世界の環境ラベルでもっとも歴史がある。
 - 2)「ノルディックスワン」: 制度開始1989年。北欧諸国が運営。



世界のタイプ I 環境ラベル

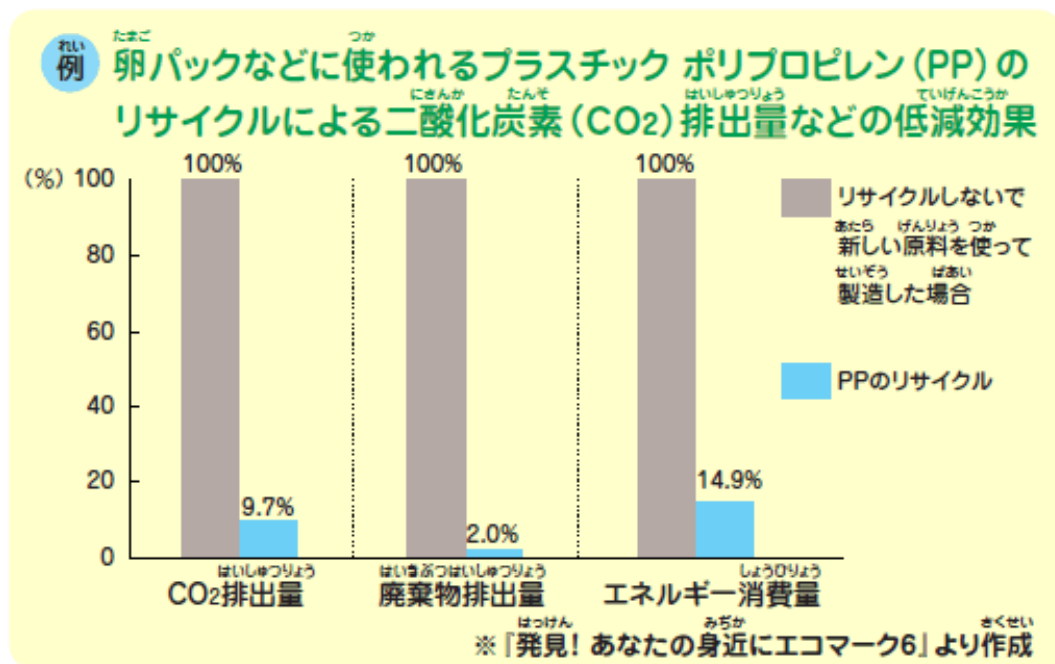


GEN(Global Ecolabelling Network)メンバー



社会に対する啓発事例

環境負荷低減効果のHP等での啓発例



プラスチックのリサイクル

CO₂が10分の1に!

省エネやCO₂の削減に寄与!



びん

環境効果

繰り返し使用は5回以上から効果を発揮します



リターナブルびんを5回以上使うと廃棄物は5分の1に、CO₂は約3分の1に。

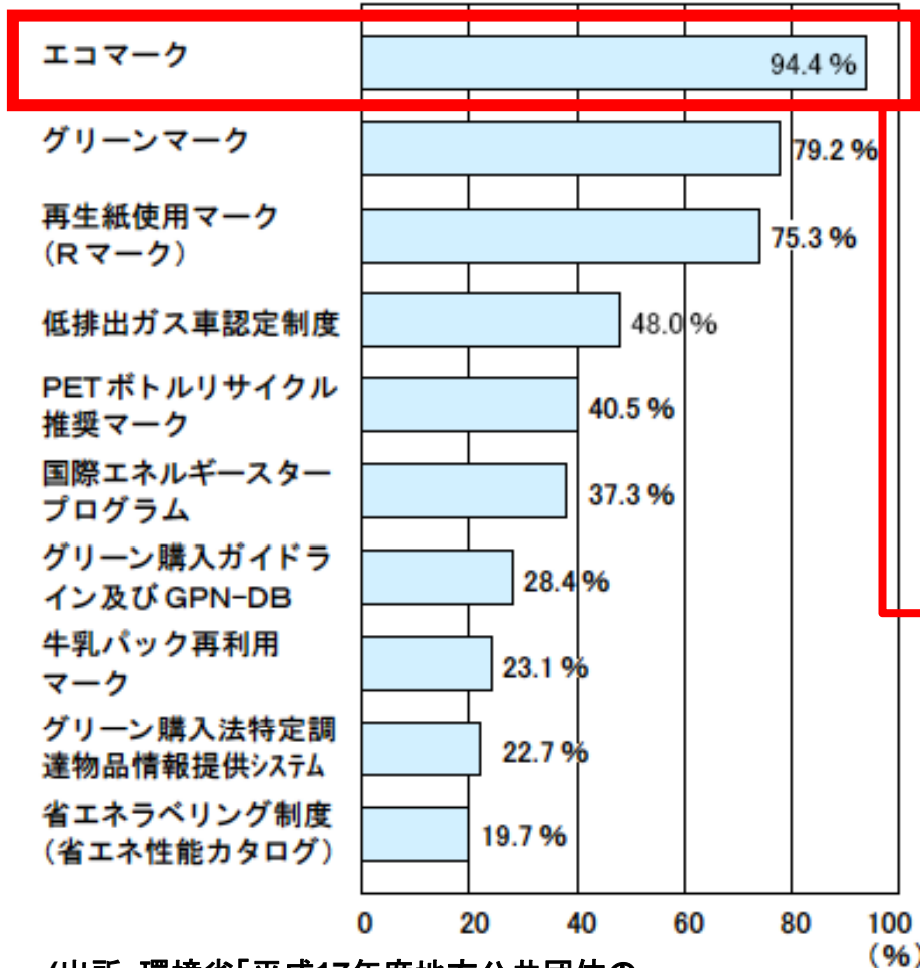
びんを繰返すつかう

CO₂が3分の1に!



エコマークの社会への浸透例

地方自治体がグリーン購入に際して参考になっている
環境ラベリング制度等（10位まで）



多数の地方自治体が、
公共調達の中で
エコマークを参考になっている

H19年度調査 97.7%
H18年度調査 98.2%
H17年度調査 94.4%
H16年度調査 95.8%

(出所:環境省「平成17年度地方公共団体の
グリーン購入に関するアンケート調査」)



エコマークの主要課題

エコマーク認定品目数の減少

○エコマークの認証のメリットが少ない

事業者: エコマーク認定の市場優位性の低減

消費者: 価格が優先する

○多くの環境ラベルの一つとして埋没傾向にある

エコマークは第三者認定のタイプ I ラベルの

特長を市場に浸透できていない

○消費者の身近な商品類型の設定が不十分である



社会情勢の変化に対応した『エコマーク改革』の方向性

〔第2期中期活動計画(2007年-2011年)〕

